

## 麻生津ネット



## 名所「あさむつ橋」~ 歴史を知る面白さに気づく

浅水の宿場町を南北に分ける浅水川にかけられ、歴史的な記録や歌が複数ある「あさむつ橋」。越前地理便覧によると、その長さは約 24 メートルもあったということです。知れば知るほど、北陸道を往還する人たちに親しまれ、歴史に残る様々な人物も「あさむつ橋」を取り上げる「名所」だということに驚きます。

平安時代の清少納言がかいた「枕草子」は、日本の風景など趣のあるところを語った随筆です。冒頭は四季それぞれの見どころ、「春は、あけぼの---」「夏は、夜---」「秋は、夕暮れ---」「冬は、つとめて(早朝)---」というのが有名ですが、この清少納言が、橋シリーズを取り上げ最初に書かれているのが「あさむつ橋」。十二単のような着物を身にまとい「橋は、あさむつの橋、ながらの橋、浜名の橋・・・」と語られた、そんな名所が麻生津にあったと想像するのもおもしろいものです。

江戸時代、松尾芭蕉が今の俳句のもとである「俳諧(はいかい)」をよみ、紀行文『おくのほそ道』で旅の体験を数々の名句でまとめたことも有名です。芭蕉の旅で、越前での最大の目的は、元禄8月 15 日に敦賀気比の松原で月見をすることだったそうで、芭蕉は、13 日夜も明けきらないうちに北陸道を南に向け進み、明け六つ時(朝六時頃)、ちょうどあさむつ橋の付近で夜が明けたのだとか。「あさむつや月見の旅の明けばなれ(芭蕉)」。あさむつ橋のあさむつと、明け六つをかけ、「月見をして一晩歩いていたら、朝になって白々としてきた」とうたわれたのだそうです。芭蕉が、麻生津を歩き美しい月を眺めていたのですね。

鎌倉時代の終わりごろになるでしょうか、史話『太平記』によれば、新田義貞の妻である勾当内侍(こうとうのないじ)が、義貞の戦死を知らされ泣き悲しまれたのが、あさむつ橋であったという話もあります。愛しい義貞中将の安否を知ろうと京から杣山(そまやま)まで移動し、さらに中将が燈明寺(現新田塚)に向かったということで、それを追って勾当内侍があさむつ橋のところまで来たときに・・そこでなんと「討死」と聞かされたのだそうです。『太平記』に描かれた悲しむ様の描写は、とても心打つものがあります。

これらの記録が麻生津の数々の貴重な資料に残っています。数え切れない人々が行き交い、様々な時代が過ぎていった「あさむつ橋」が、今でも人々の心に残っているということでしょう。あそうづっこもご家族と一緒に、そして大人になったときにも、しみじみと想像を膨らませ、ふるさとを愛する人になってほしいと思うのです。

【参考】:麻生津風土記(H3年)、私たちのふるさと 麻生津(H23年)、麻生津村誌(S54年)、福井県 史、DVD ブラブラあそうづ①(H30年)



昭和初期のころのあさむつ橋

## 6・ 7月の行事予定および下校時刻の変更

		行事等	下校時刻
6月	18日(火)	指導主事訪問	全校14:20下校
	24日(水)	クラブ	クラブ4~6年15:10下校
	26日(水)	6年連合音楽会	6年15:45下校予定
	27日(木)	4年校外学習	
	28日(金)	全校集会	
7月	Ⅰ日(月)	委員会	5,6年15:10下校
	3日(火)		
	\$	保護者懇談会(~5日)	全校13:10下校
	5日(金)		
	7日(日)	麻生津地区クリーン作戦	
	8日(月)	クラブ	4~6年15:10下校
	10日(水)	なかよし活動	
	17日(水)	町内子ども会、集団下校訓練	全校14:20下校
	19日(金)	全校集会	全校14:20下校



〈麻生津小学校ホームページ〉

授業や行事の様子などを掲載しています。

ぜひ、ご覧ください。

https://asozu-e.sub.jp/



## 歩道橋補修工事に伴う通学路の変更について

保護者の皆様には、お便りにてお知らせしましたが、6月21日(金)~7月19日(金)の間、麻生津歩道橋の補修工事により、一部の通学路が変更となります。お子様達が安全に登校できますよう、お声かけなどをお願いします。また、安全確保のため、正門付近や東校庭駐車場の出入りについて、ご配慮いただけますようよろしくお願いします。